

第 5 次基本方針に係る事業量について

第5次基本方針の当初計画と実績見込みの乖離について

当初計画と実績見込みの乖離について

IV. 義務者存在 坑廃水処理 1. 第5次基本方針（当初計画）に対するR4年度末実績見込（年間処理量）

	鉱山数	排出量 (万m ³ /年)	年間処理量(t/年)						
			カドミウム	鉛	砒素	銅	亜鉛	鉄	マンガン
当初計画	55	5,460	9.0	144	10	194	1,985	3,783	1,238
実績見込	55	5,307	4.4	75	4	143	1,311	3,769	1,413

※一部の鉱山で、製錬廃水等を含む

【出典】鉱害防止事業者の情報を基に経済産業省作成（令和4年11月末時点）

<乖離の推察>

- ①カドミウム：当初比 ▲4.6 t（主な原因：A鉱山による影響 ▲2 t、B鉱山による影響 ▲2 t）
- ②鉛：当初比 ▲69 t（主な原因：B鉱山による影響 ▲68 t）
- ③砒素：当初比 ▲6 t（主な原因：A鉱山による影響 ▲4 t、D鉱山による影響 ▲2 t）
- ④銅：当初比 ▲51 t（主な原因：C鉱山による影響 ▲13 t、D鉱山による影響 ▲30 t）
- ⑤亜鉛：当初比 ▲674 t（主な原因：A鉱山による影響 ▲751 t、B鉱山による影響 +90 t）
- ⑥マンガン：当初比 +175 t（主な原因：A鉱山による影響 +149 t、B鉱山による影響 +27 t）

【出典】鉱害防止事業者の情報を基に経済産業省作成（令和4年11月末時点）

- A鉱山：平成18年に閉山し、平成23年度から水処理を開始（それまでは坑内に湛水）。当初数年間は原水濃度が安定せず、5次計画策定時は平成23～24年度の濃度の値を用いて計算したが、次第に濃度が安定したため、実績値に影響を与えたと思われる。
- B鉱山：従来より製錬廃水を含めた算定としており、製錬残渣・リサイクル廃材等の重金属含有率に大きく左右されるため、実績値に影響を与えたものと思われる。
- C鉱山：坑道閉塞プラグ工事等の影響により、水量・水質が改善し計画値より低くなったと思われる。
- D鉱山：B鉱山と同じ。

【参考】前回部会（第2回）資料

①計算方法について

【計画策定時の計算】

計算式：計画処理量（年間）＝原水の重金属濃度×水量（年間）－処理水の重金属濃度×水量（年間）
各鉱山毎に算出した重金属量（計画処理量）を積み上げて、全鉱山の計画処理量を算出

なお、気象等の影響により、原水の水質、水量は常に変動するものであるが、定期的に測定した実績値の年平均にて算出。

計算例：a鉱山（測定頻度は各鉱山の規定に基づき実施。例えば重金属濃度月1回、水量毎日1回）
（0.3mg/L（4次最終3年間の平均原水重金属濃度）×0.5m³/分（4次最終3年間の平均水量）－
0.01mg/L（4次最終3年間の平均処理水重金属濃度）×0.5m³/分（4次最終3年間の平均水量））×
60分×24時間×365日＝76.212kg/年
a鉱山(76.212kg) + b鉱山(○○kg) + c鉱山(△△kg) …… ≒ 9.0 t /年（5次計画処理量）

【実績値※の計算】

上記の計算式を用いて、各鉱山における5次期間中（10年間）の実績から平均年間処理量を算出
各重金属の平均年間処理量を積み上げて、全鉱山の処理量実績を算出

※令和4年度は、過去の実績をふまえた実績見込み値を使用。

②当初計画と実績見込みの乖離については、現在、データ等を精査中。